

Citation: McDonald N, Bara A, McKean MC. Anticholinergic therapy for chronic asthma in children over two years of age. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2003, Issue 1. Art. No.: CD003535. DOI: 10.1002/14651858.CD003535.

CRG名 : Airways

## [最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月 : 17 February 2009

Clib issue No.; N/U: 2009 issue 3, Update

**背景:** コリン作動性(ムスカリン性)交感神経系は、気道径を制御する内因性システムにおいて重要な役割を果たしている。臭化イプラトロピウムなどの抗コリン作動性、抗ムスカリン性気管支拡張薬が、小児期の気道疾患の管理にしばしば用いられている。喘息においてイプラトロピウムは $\beta$ -2アドレナリン作動薬ほど強力な気管支拡張薬ではないが、特に喘息重責状態に際しては他の治療法の有用な補助薬となることが知られている。慢性喘息の維持治療における抗コリン薬の役割は依然として不明である。

**目的:** 2歳を超える小児の慢性喘息に対する抗コリン薬の有効性を評価する。

**検索戦略:** Cochrane Airways Group Specialised Registerおよび論文の参考文献リストを検索した。2009年2月まで検索を実施した。

**選択基準:** 2歳を超える小児の慢性喘息に対して抗コリン薬を投与しているランダム化比較試験を含めた。抗コリン薬をプラセボと比較している研究および抗コリン薬を他の薬剤と比較している研究を含めた。

**データ収集と分析:** 試験の選択のための適格性および質については、レビューア2名が独自に評価した。

**主な結果:** 研究8件が選択基準に適合した。論文3件は抗コリン薬の有効性をプラセボと比較しており、これらの結果のメタアナリシスから、使用したアウトカム指標はいずれも抗コリン薬の使用に統計学的にプラセボを上回る有意な利益は実証されていなかった。これらのうち1件の試験結果はメタアナリシスに含めることができなかったが、本試験の著者らはプラセボと比較して吸入抗コリン薬により症状スコアが有意に低下したことを報告していた。しかし、夜間や日中の無症状の割合については、臭化イプラトロピウムとプラセボとの間に有意差を認めなかった。2件の試験では、FEV<sub>1</sub>を20%低下させるために必要なヒスタミン誘発用量(PD20)を測定することによりヒスタミンに対する気管支過敏性に及ぼす抗コリン薬の効果を検討していた。研究1件(抗コリン薬をプラセボと比較)で統計学的に有意なPD20の上昇を報告していたが、この所見は別の研究(抗コリン薬を $\beta$ -2作動薬と比較)では認められなかった。いずれの試験も最大呼気流量(PEFR)の日内変動に対する抗コリン薬の有効性を検討しており、有意な効果を報告していなかった。2件の研究は $\beta$ -2作動薬に抗コリン薬を追加した場合を $\beta$ -2作動薬単独と比較していた。両試験とも、 $\beta$ -2作動薬単独と比較して、抗コリン薬と $\beta$ -2作動薬との長期併用治療による有意な利益を明らかにすることはできなかった。試験1件は経口および吸入抗コリン薬の有効性をプラセボと比較していた。アウトカム指標は、プラセボと比較して経口抗コリン薬でFEV<sub>1</sub>/VC比およびRV/TLC比が高かった以外は、いずれも統計学的に両群の間で有意差を認めなかった。

**レビューアの結論:** 本レビューは、現在までに利用可能な最良のエビデンスを概要している。抗コリン作動薬療法によりわずかではあるが何らかの有益な所見を認めたが、小児の慢性喘息の維持治療に抗コリン薬の使用を支持するにはデータが不十分である。

(監訳 尹 忠秀)

翻訳公開日 : 09年11月16日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点があれば、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版

Copyright(c) All rights reserved by Minds, Japan Council for Quality Health Care  
の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴う誤りが生じる場合もございます。利用に際しては最新版  
(英語版)の内容をご確認ください。